

2021（令和3）年度

# 駒澤大学 × SDGs 活動報告書



駒澤大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

# 目 次

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 1. 学長メッセージ                           | 03 |
| 2. SDGs とは                           | 04 |
| 3. 2021（令和3）年度 駒澤大学における「SDGs」について取組み | 05 |
| (SDG：1) 貧困をなくそう                      | 06 |
| (SDG：2) 飢餓をゼロに                       | 08 |
| (SDG：3) すべての人に健康と福祉を                 | 09 |
| (SDG：4) 質の高い教育をみんなに                  | 13 |
| (SDG：5) ジェンダー平等を実現しよう                | 15 |
| (SDG：6) 安全な水とトイレを世界中に                | 24 |
| (SDG：7) エネルギーをみんなに そしてクリーンに          | 25 |
| (SDG：8) 働きがいも経済成長も                   | 28 |
| (SDG：9) 産業と技術革新の基盤をつくろう              | 30 |
| (SDG：10) 人や国の不平等をなくそう                | 32 |
| (SDG：11) 住み続けられるまちづくりを               | 34 |
| (SDG：12) つくる責任 つかう責任                 | 39 |
| (SDG：13) 気候変動に具体的な対策を                | 41 |
| (SDG：14) 海の豊かさを守ろう                   | 44 |
| (SDG：15) 陸の豊かさも守ろう                   | 46 |
| (SDG：16) 平和と公正をすべての人に                | 48 |
| (SDG：17) パートナリシップで目標を達成しよう           | 49 |
| (SDGs 全般)                            | 53 |

# 学長メッセージ

国連が2030年までに世界中の国々が達成を目指すべき共通の目標として掲げた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を受け、日本国内でもさまざまな取り組みが始まりました。

駒澤大学のSDGsの原点は、建学の理念「仏教の教えと禅の精神」にある「智慧（ちえ）と慈悲（じひ）」の心にあります。「智慧と慈悲」は、本質の洞察に基づいて、あらゆるものを大切に扱うということです。この心は、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない社会の実現（leave no one behind）」と通じるものであり、SDGsの17の目標は、本学が目指し続けてきた社会の実現ための目標でもあるといえます。

2021年4月に学長に就任し、本学の目指すべき方向性として、「デジタル化（DX）の推進による大学のマネジメント改革」と「ダイバーシティ（多様性）の尊重による個を活かす大学」の2つを掲げました。

ダイバーシティの尊重は、言うまでもなく、SDGsの17の目標と深いつながりがあります。一口に多様性といっても、性別、人種、年齢、身体的な障害など見えやすいものから、国籍、出身地、貧困、家族構成、性的指向、さらには価値観といった見えにくいものまで、多岐にわたります。そのような属性に捉われることなく、平等に機会が与えられる、個性を活かすことのできる大学を目指しています。

デジタル化は、ダイバーシティの尊重のための大事な手段です。オンラインツールを使うことによって、学び方、働き方にさまざまな選択肢が出現しました。一人ひとりが自分に合った選択ができることは、ダイバーシティの尊重につながります。

SDGsの1つ1つの目標をしてみると、個人では達成が難しいように感じるかもしれません。本報告書に掲載されている取り組み事例が、個人レベルでの取り組みのヒントになれば幸いです。方法は一つではありません。「誰かのために行う」ということが、すべてSDGsにつながり、そしてその原点はやはり「仏教の教えと禅の精神」にあるのではないのでしょうか。

本学では、個が生きる社会の実現に向けて、教職員、学生、地域社会、様々なステークホルダーと協働し、取り組みを進めてまいります。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



駒澤大学学長 各務 洋子

# SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

（出典：外務省ホームページ）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

## ■SDGs17の目標



あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う



すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する



気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化



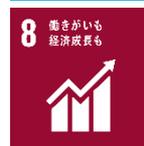
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する



国内及び各国家間の不平等を是正する



持続可能な消費生産形態を確保する



持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



## 2021年度 駒澤大学における「SDGs」についての取り組み

---

駒澤大学では、「SDGs」に関連した取り組みを行っています。

また教育活動、研究活動においても「SDGs」について取り扱い、その目指す社会の実現に向けて広く活動を行っています。

ここでは2021年度の本学の取り組みの一部を17の目標別に紹介します。



## 新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等に対する支援プロジェクトについて

駒澤大学では、コロナ禍の影響を受けている学生などを主な対象として、食料品・生理用品支援（無償配布）を行っています。学内外から本プロジェクトに対していただいた寄付金を原資としているほか、ご賛同くださった企業・団体からも無償や特別価格での商品提供をいただいています。

### 「食」支援プロジェクト

- 第1弾 「SDGs『そのままカレー』を無駄にしない！」  
2021年5月18日（火）～20日（木） ※詳細はSDG.12参照
- 第2弾 「食に願いを@七夕」  
2021年7月5日（月）～9日（金） ※詳細はSDG.17参照
- 第3弾 「食べて、学んで、SDGs」  
2021年11月15日（月）～19日（金） ※詳細はSDG.12参照



### 「生理用品」支援プロジェクト ※詳細はSDG.3参照

- 第1弾 2021年 7月12日（月）～16日（金）
- 第2弾 2021年 9月29日（水）～12月24日（金）
- 第3弾 2021年11月15日（月）～19日（金）
- 第4弾 2022年 1月 7日（金）～



## 駒澤大学が実施する奨学金

駒澤大学では、「経済支援」や「学業奨励」等を目的として、給付型の奨学金を実施しています。

また2020年度に、新型コロナウイルス感染拡大における防止対策として行われたオンライン授業の受講環境・通信環境の整備費用等に充てられるよう、全学生を対象に奨学費として1人5万円の「緊急修学支援金」を給付しました。2021年1月20日（水）をもって緊急修学支援金の申請受付および給付が終了し、総額7億495万円を14,099人の学生に給付しました。

### おもな学内奨学金

- ・自己推薦選抜（総合評価型）奨学金
- ・駒澤大学新人の英知（一般選抜特待生）奨学金
- ・駒澤大学全学部統一日程選抜奨学金
- ・百周年記念奨学金、駒澤会奨学金、同窓会奨学金
- ・大学院給付奨学金、駒澤大学大学院授業料減免
- ・学業成績最優秀者奨学金 など



1 貧困をなくそう



あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる

## SDG:1を取り扱った授業

1 貧困をなくそう



|   |                  |
|---|------------------|
| 専門教育科目                                    | 「企業論」            |
| 担当教員                                      | 鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科） |
| 概要  | 環境経営             |
| <p>サステナブルな企業経営のあり方としてフェアトレードの事例を紹介した。</p> |                  |
|   |                  |

1 貧困をなくそう



|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 専門教育科目  | 「企業と社会」                     |
| 担当教員  | 村山 元理（経営学部 経営学科）            |
| 概要  | 社会的問題の解決のに向けて－NPO・BOPビジネス入門 |
| <p>貧困解決を目指す、NPOとして米国コペルニク、アキュメン、ブルースウェターの物語、住友化学のオリセットでのアフリカ支援などを話し、貧困解決に向けた資金提供のスキーム、企業による貧困解決の商品開発の事例を説明した。</p> |                             |
|   |                             |

2 飢餓を  
ゼロに



飢餓を終わらせ、食料安全保障及び  
栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する

## 「100円朝食」の取り組み

2014年度から、父母の会である「駒澤大学教育後援会」の支援によりスタートした取り組みで、在学学生を対象に学生食堂で100円の朝定食を毎朝提供するというものです。

親元を離れて一人暮らしをする学生もいる中で、栄養に配慮した朝食を安価に提供し、食育の視点から学生生活をサポートすることを目的としています。和食に加え洋食メニューを導入したり、1週間分の献立を事前に告知したりするなど、学生のニーズに応じており、学生からの要望に配慮しながら実施しています。またこの取り組みに賛同した企業より協力があり、食材の一部が提供されています。



3 すべての人に  
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の  
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

## 「生理用品」支援プロジェクト

長引く新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済的な理由等により、生理用品が買えない「生理の貧困」が社会問題となっていることを受けて、生理用品の購入が困難な学生への無償配布を実施しています。

### 第1弾 2021年7月12日（月）～16日（金）

生理用品の購入が困難な学生約400人に無償配布しました。配布と併せてアンケートを実施し、実態調査を行いました。（賛同企業：第一衛材株式会社・株式会社コスメランド）

### 第2弾 2021年9月29日（水）～12月24日（金）

種月館1階・2階の女子トイレ内に専用ボックスを設置し、生理用品2,850枚を無償配布しました。

### 第3弾 2021年11月15日（月）～19日（金）

食料品・生理用品支援プロジェクト第3弾として「食べて、学んで、SDGs」を実施し、食料品や文具、生理用品などを2,300人に無償配布しました。

### 第4弾 2022年1月7日（金）～

生理用品支援を恒常的なものとするため、学内の個室トイレ24箇所にオイテル株式会社の生理用品ディスペンサー「OiTr（オイテル）」を導入しました。専用無料アプリをかざすことで、無償でナプキンを受け取ることができます。（協力企業：オイテル株式会社）



## 新型コロナワクチン職域接種（大学拠点接種）について

駒澤大学では、本学における教育・研究活動や課外活動等を一日でも早く安全・安心に再開できる環境を整えること、そしてワクチン接種の加速化への貢献を目的に、駒沢キャンパスで新型コロナワクチン職域接種（大学拠点接種）を2021年9月4日（土）～10月17日（日）の期間で実施しました。

1か月半におよぶ接種期間に、学生・生徒、教職員、キャンパスで働く方々、地域住民の方々等、約5,000人（うち、地域住民等の方は約1,000人）が2回のワクチンを接種しました。



3 すべての人に  
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の  
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

## 仏教学部の教員が公益財団法人世田谷区保健センター主催の 「坐禅体験講座」に協力

仏教学部の岩永正晴教授と大澤邦由准教授が、2021年10月7日（木）と9日（土）に公益財団法人世田谷区保健センターで開催された「坐禅体験講座」に講師として参加し、坐禅指導を行いました。

この講座は世田谷区保健センターが健康増進事業の一環として主催するもので、今回は「心の健康づくりとしての坐禅」をテーマに、坐禅の教えや作法の説明と坐禅体験を実施しました。



## グローバル・メディア・スタディーズ学部の各務洋子ゼミが 「第61回インナー大会プレゼンテーション部門本選」で 第3位の審査員賞を受賞 【研究・授業】

2021年11月14日（日）に行われた「第61回インナー大会プレゼンテーション部門本選（主催：日本学生経済ゼミナール関東部会）」で、グローバル・メディア・スタディーズ学部の各務洋子ゼミ「耳守り隊」チームが、第3位の審査員賞を受賞しました。

この大会は、専門分野の理解を深め研究活動を促進すること、他大学との交流を深めることを目的とし、関東地区の経済・経営・商業系の分野を専攻する学生が対象となる関東最大規模の学術大会です。今大会の参加チーム総数は132チーム、本選には12チームが出場しました。ゼミ活動の研究成果を発表し競い合う「プレゼンテーション部門」と、一つの共通テーマに沿って議論し意見の交換をすることで研究を発展させる「討論部門」の2部門で構成されています。



本選で優秀な成績を収めた「耳守り隊」チームには、大会後に駒澤大学のキャンパス内で実施された授賞式でトロフィーや賞状が授与されました。

受賞チーム：「耳守り隊チーム」

テーマ：「耳守りプロジェクト」

～難聴リスクから、人々の“聞こえ”を守るために～



3 すべての人に  
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の  
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

## 駒沢キャンパスのバリアフリーマップ

2018年度および2019年度の障がい学生支援ピアサポーターが作成したバリアフリーマップを原案に、専門企業や学内関係部署で現地調査を実施して、2020年7月時点の施設設備状況を反映させて作成しました。

安心してキャンパスを利用できるよう、キャンパス内の段差やスロープ、車いす用の階段昇降機 の場所などをわかりやすく表示しています。

また、2021年に誘導用サインとして本部棟や記念講堂等の段差にラインを引きました。

### 駒沢キャンパス バリアフリーマップ

2020年7月版

すべての学生が、安心して学べるキャンパスです。  
このマップは、障がい学生支援ピアサポーターの協力により作成されました。  
最新の施設設備状況、通行ルート情報が随時更新されていきます。

#### 特に注意を要する場所・補足説明



#### キャンパス情報

- 所在地 〒158-8501 東京都世田谷区駒沢2-29-1
- 交通アクセス  
電鉄有楽町線 駒沢駅 徒歩5分、JR有楽町線 駒沢駅 徒歩10分
- 主な施設  
学生会館、教職員宿舎、学生センター



3 すべての人に  
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の  
健康的な生活を確保し、福祉を促進する

## SDG:3を取り扱った授業

3 すべての人に  
健康と福祉を



|   |   |
|---|---|
| 全学共通科目  | 「 <b>汚染問題を考える</b> 」   |
| 担当教員  | 持丸 真里（総合教育研究部 自然科学部門）   |
| 概要  | 化学物質による地球汚染の歴史・水俣病・現代の重金属汚染・海洋のプラスチック汚染・POPs・ダイオキシン・内分泌かく乱化学物質・オゾン層破壊・化学物質過敏症 他 |
| <p>これまでに起こった様々な汚染問題の、自然科学的な基礎知識や背景・社会的に得られた教訓を解説した。授業内容を通して、現代社会が抱える化学物質利用に関する問題点について、受講生自身が科学的視点からも考察できるようになることを目的とした。</p> |   |
|   |   |

3 すべての人に  
健康と福祉を



|   |                            |
|---|----------------------------|
| 全学共通科目  | 「 <b>スポーツ科学で学ぶ教養（健康）</b> 」 |
| 担当教員  | 江口 淳一（総合教育研究部 スポーツ・健康科学部門） |
| 概要  | 超高齢化社会と余暇の増大。スポーツが果たす役割    |
| <p>超高齢化社会の実態を学習し、余暇活動に生涯スポーツを持つことが、結果として健康をもたらし、自己実現につながることを理解。</p> |                            |
|   |                            |



すべての人に包摂的かつ公正な  
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

## 生涯学習について（禅文化歴史博物館）

駒澤大学禅文化歴史博物館は、本学の特色を活かした禅（仏教・宗教）の文化、歴史を中心とする博物館とし、一般公開することにより、地域社会のみならず、広く世界へ向けて大学の情報を発信する基地としての役割を担っています。

|                        |                                   |
|------------------------|-----------------------------------|
| (2021.7/6、7/7)         | ふれあい七夕まつり2021開催&オンラインで願い事         |
| (2021.10/04~11/20)     | 企画展「書でたどる良寛の足跡」                   |
| (2021.10/13)           | 第40回禅博セミナー「慈愛の人 良寛入門」             |
| (2021.11/29~12/18)     | 第15回駒澤大学博物館学講座企画展「川が運ぶ恩恵－多摩川と人々－」 |
| (2021.12/8)            | 第35回禅博実践セミナー「臘八坐禅」                |
| (2021.12/15~2022.3/31) | わくわくぜんぱく探検ジャー！                    |
| (2022.2/9~)            | 禅博公式YouTubeチャンネル公開                |
| (2022.2/16~3/3)        | 特別公開「大涅槃図」                        |
| (2022.2/18)            | 特別公開「大涅槃図」館長ギャラリートーク「涅槃図絵解き」      |
| (2022.3/9~11)          | 「正法眼蔵辨註」版木保存作業                    |



## 生涯学習について（公開講座）

駒澤大学では、大学における研究と教育の成果を広く社会に還元し、教養と文化の向上に寄与することを目的として、公開講座を開講しています。

### 令和3年度 春季公開講座

#### 【現代日本の供養文化】

講師：徳野 崇行（仏教学部 准教授）  
村上 晶（仏教学部 講師）  
加藤 之晴（総合教育研究部 非常勤講師）  
梶 龍輔（総合教育研究部 非常勤講師）

#### 【禅の歴史の物語】

講師：小川 隆（総合教育研究部 教授）

#### 【文学で旅をする】

講師：石井 公成（駒澤大学 名誉教授）  
石原 孝哉（駒澤大学 名誉教授）  
田中 保（駒澤大学 名誉教授）  
杉山 秀子（駒澤大学 名誉教授）

#### 【『万葉集』と「令和」】

講師：中嶋 真也（文学部 国文学科 教授）

### 令和3年度 秋季公開講座

#### 【禅僧の生活と生涯】

講師：小川 隆（総合教育研究部 教授）

#### 【国際関係で学ぶグローバル・メディア・ステージズ 入門編】

講師：芝崎 厚士（GMS学部 教授）

#### 【道元禅師の正伝の仏法と只管打坐】

講師：岩永 正晴（仏教学部 教授）  
新井 一光（曹洞宗総合研究センター）  
永井 賢隆（曹洞宗総合研究センター）  
秋津 秀彰（曹洞宗総合研究センター）  
角田 泰隆（仏教学部 教授）

#### 【江戸湾をめぐる近世～海洋・河川・低地の地域史～】

講師：菅野 洋介（文学部 歴史学科 准教授）

#### 【ストレッチ&スローエクササイズ】

講師：末次 美樹（総合教育研究部 准教授）

### 令和3年度 特別無料講座

#### 【禅の基本思想と世界への展開】

講師：角田 泰隆（仏教学部 教授）  
石井 清純（仏教学部 教授）



4 質の高い教育を  
みんなに



すべての人に包摂的かつ公正な  
質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

## SDG:4を取り扱った授業

4 質の高い教育を  
みんなに



|  |                        |
|--|------------------------|
| 専門教育科目   | 「基礎国文学Ⅰ」               |
| 担当教員   | 近衛 典子（文学部 国文学科）        |
| 概要   | 江戸時代以前の日本語の文字（くずし字）の読解 |
| 江戸時代以前の日本語の文字の大部分はくずし字で書かれ、現代人は訓練しなくては読めない。以前からくずし字読解教育は限られた学問分野において行われてきたが、近年、地震や火山の噴火など甚大な災害が相次ぐ中で、過去の記録を読解する必要性がより幅広く認識されるようになった。また、国際的にもくずし字を読み日本文化を理解しようとする機運が高まっている。授業では、くずし字を読む意義を明確に伝え、その技能を身に付けさせる取り組みを行った。 |                        |

4 質の高い教育を  
みんなに



|   |                        |
|---|------------------------|
| 資格/講座科目   | 「博物館概論」                |
| 担当教員  | 小泉 雅弘（文学部 歴史学科 日本史学専攻） |
| 概要  | 博物館の教育普及活動             |
| 博物館の教育普及活動として、展示による教育普及活動、博学連携（学校教育）、生涯学習の推進、まちづくりや地域の活性化、福祉や医学的観点からの博物館利用について講義した。 |                        |
|  |                        |

4 質の高い教育を  
みんなに



|   |                    |
|---|--------------------|
| 専門教育科目  | 「演習Ⅰ」              |
| 担当教員  | 鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科）   |
| 概要  | 教育格差がもたらす社会的分断について |
| 教育を受けられる環境の差が格差を拡大させていることを説明した。   |                    |
|     |                    |

## SDG:4を取り扱った研究

4 質の高い教育を  
みんなに



|   |                 |
|---|-----------------|
| 教員  | 近衛 典子（文学部 国文学科） |
| 概要  | 江戸時代の実用書について    |
| 江戸時代の実用書の具体相を探求することで、現代に繋がる行事の継承や園芸・ペットブームといった文化の根底を明らかにすることができる。 |                 |

4 質の高い教育を  
みんなに



|   |                         |
|---|-------------------------|
| 教員  | 内藤 寿子（総合教育研究部 日本文化部門）   |
| 概要  | 地域における在日外国人の子どもへの教育支援活動 |
| 日本社会における教育機会の平等などを実現するための実践活動   |                         |
|    |                         |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、  
すべての女性及び女兒のエンパワーメントを行う

## 「駒澤大学ダイバーシティ推進に関する基本方針」の策定

駒澤大学は、学生、教職員のダイバーシティ（多様性）を尊重する〈個〉を活かした柔軟な大学の実現を目指し、各種関連事業に取り組んでいます。そこで今年度、全学的にダイバーシティへの理解と浸透を図るべく「駒澤大学ダイバーシティ推進に関する基本方針」を策定いたしました。

今後は、本基本方針に基づき、ダイバーシティ推進に関する各種事業を進めてまいります。



## 令和3年度教職員研修会

### 「ダイバーシティ推進事業に係る研修会」の開催

駒澤大学では、ダイバーシティ推進事業として教職員のダイバーシティ・マインド醸成を目的とし、①ジェンダー平等・共同参画、②セクシュアル・マイノリティ、③障がい者、④外国籍・民族・宗教、の4つの分野を重点施策として教職員研修会を開催しています。

#### 「ダイバーシティ推進事業に係る研修会」

第1回 「多文化・民族の共生の社会へ向けて」

日時：2021年10月7日（木）16：20～18：00

講師：山崎 望（法学部政治学科 教授）※詳細はSDG.10参照

第2回 「働き方の多様性」

日時：2021年12月9日（木）14：30～16：10

講師：企業においてダイバーシティ推進に従事されているご担当者 ※詳細はSDG.8参照

第3回 「本学における障がい学生支援の実際」

日時：2022年1月21日（金）14：00～15：30 ※オンライン開催

講師：渡邊 浩司（学生部 学生支援相談課 専任カウンセラー

兼 障がい学生支援コーディネーター）※詳細はSDG.10参照



# 駒澤大学ダイバーシティ推進に関する基本方針

駒澤大学は、自分の道を見つけ出すための"よりどころ"として、こころ・まなび・つながりをコンセプトに教育活動を展開しています。

本学は、前身となる「学林」の設立以来、430年に及ぶ長い歴史と伝統を有しており、弛まぬ努力や改革によって時代に応じた「大学教育のあるべき姿」を追求し、有為の人材を輩出してまいりました。

日本だけでなく世界中が大きな社会変革に直面している現在、新しい時代を創造する駒澤大学であり続けるためには、「ダイバーシティ（diversity）」推進の取り組みが必要です。

元をたどれば、多様な個性を尊重しながら共創を目指す「ダイバーシティ」の考え方は、本学の建学の理念「仏教の教義と曹洞宗立宗の精神」にある「智慧（ちえ）と慈悲」に通じるものがあります。それは自分自身（自己）を見つめ、真理を明らかにするための学びに勤しむだけでなく、あらゆる存在（他己）の尊厳と多様性を認め「見返りを求めない」という「利他の心」の確立を意味します。建学の理念に基づく教育活動こそ、本学独自のダイバーシティ推進の根幹です。

本学は、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材育成の一環として、以下のとおりダイバーシティ推進に関する基本方針を定めます。

- 1 自己の確立とともに、多様な他者への思いやりを忘れず、助け合う心を育み、共生社会の実現に資する人材を育成します。
- 2 ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、国籍、エスニシティ、文化、宗教、思想、信条、障がい等、多様な背景を持つ学生・教職員が互いを理解し尊重しあうために意識啓発を行い、魅力あるキャンパスを実現します。
- 3 学修、キャリア形成、研究等において、全ての学生・教職員が等しく活躍の機会を得られるよう、相談・支援体制及び施設設備を充実させます。
- 4 公平・公正かつ多様な人的構成と体制を構築し、ワーク・ライフ・バランスを実現できる教育・研究・職場環境を整備します。



5 ジェンダー平等を  
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、  
すべての女性及び女性のエンパワーメントを行う

## 文学部社会科学の松信ひろみゼミの調査報告書が世田谷区立男女共同 参画センターの「セクシュアル・マイノリティフォーラム2021」で 展示されました 【研究・授業】

文学部 社会科学の 松信 ひろみ ゼミの調査報告書が、2021年9月5日（日）に世田谷区立男女共同参画センターらぷらすで開催された「セクシュアル・マイノリティフォーラム2021」の展示会場に展示されました。

松信ゼミでは、毎春代々木公園イベント広場でセクシュアル・マイノリティの権利主張のイベントとして開催される「東京レインボープライド」で、1995年から毎年ボランティア活動の一環として来場者アンケートを実施し、その結果を報告書にまとめて公表しました。



## 文学部社会科学の松信ひろみゼミが渋谷区男女平等・ダイバーシティ センター（アイリス）で報告会を行いました 【研究・授業】

文学部 社会科学の 松信 ひろみ ゼミが、2021年12月4日（土）に渋谷区男女平等・ダイバーシティセンター（アイリス）で報告会を行いました。

松信ゼミは、2020年度に渋谷区が区民、在勤・在学者、中学生及び区職員を対象として実施した「男女平等及び多様性社会に関する意識調査」の比較分析を委託されました。報告会ではこれらの4つのデータを分析し、大きな差がみられる部分について、グラフ資料等を作成して報告しました。



5 ジェンダー平等を  
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、  
すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う

## NHKよるドラ「恋せぬふたり」オンライントークイベントを 開催しました

2022年2月12日（土）に、本学のダイバーシティ推進事業の一環として、NHKで放映の、よるドラ「恋せぬふたり」のオンライントークイベントを開催しました。

ドラマでは、「アロマンティック・アセクシュアル（\*）」の男女が、互いに「家族（仮）」と呼ぶ同居生活を始め、両親、上司、元カレ、ご近所さんたちといった周囲の人たちの反応に戸惑いながらも、恋愛感情抜きで男女として歩む姿が描かれています。

トークイベントのテーマは、「多様なセクシュアリティと家族のあり方」として、主人公・咲子の妹・みのり役の北香那さん、ドラマの「アロマンティック・アセクシュアル」考証を務めた中村健さん、企画・演出を担当した押田友太さんをパネリストとしてお招きのうえ、本学文学部の松信ひろみ教授（ダイバーシティ推進担当学長補佐）が司会進行役となり、イベントが行われました。

イベントには、質問者として本学の学生4人、並びにオンラインでのイベント視聴者として約60人の学生等が参加し、ドラマを見た感想や感じた疑問等について、パネリストよりお答えいただきました。

セクシュアル・マイノリティへの理解や対応といったことばかりでなく、若者にとっての恋愛や結婚とは？といったように学生ならではの質問もありましたが、パネリストの方々は、一つ一つの質問に丁寧にお答えくださり、学生の主体的な学びの場となりました。

\*アロマンティック・アセクシュアル：

"アロマンティック"とは、恋愛的志向の一つで他者に恋愛感情を抱かないこと。

"アセクシュアル"とは、性的指向の一つで他者に性的にひかれられないこと。

どちらの面でも他者にひかれられない人を、「アロマンティック・アセクシュアル」と呼ぶ。



5 ジェンダー平等を  
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、  
すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う

## SDG:5を取り扱った授業

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|        |   |
|--------|---|
| 専門教育科目 | 「基礎国文学Ⅱ」  |
| 担当教員   | 岡田 豊（文学部 国文学科）  |
| 概 要    | ジェンダー理論の現状と理論を援用した文学テキストの読解分析について<br>近現代の小説テキストの読解分析を通して、ジェンダーについて学ぶ。テキストレベルだけでなく、読者のジェンダー・バイアス等も含めて、問題発見に伴う困難や限界等も考えさせた。 |
|        |   |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|        |   |
|--------|---|
| 専門教育科目 | 「現代家族論」   |
| 担当教員   | 松信 ひろみ（文学部 社会学科 社会学専攻）  |
| 概 要    | 現代家族の様相を理解することが目的であるが、その中で生活時間やアンペイドワーク、そして夫婦の役割分担におけるジェンダー格差について触れ、また女性の貧困の問題も取り上げた。さらに、多様な家族の一つとして同性カップルの現状についても解説し、それにかかわってセクシュアリティの問題にも触れた。 |
|        |   |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|        |   |
|--------|---|
| 専門教育科目 | 「社会学専門演習Ⅰb」   |
| 担当教員   | 松信 ひろみ（文学部 社会学科 社会学専攻）  |
| 概 要    | 家族、ジェンダー、セクシュアリティについての学術論文を輪読したほか、来年度の活動に向けて、セクシュアル・マイノリティについての理解を深めるため、セクシュアル・マイノリティ・サポーター向けの指南書を読み、また講習会へも参加し、当事者の方の経験談などを伺った。さらに、本学のダイバーシティ推進事業（NHKとのコラボレーション企画：NHKよるドラ「恋せぬふたり」のトークショー）にゼミとしてかわり、ドラマと関連付け、セクシュアル・マイノリティやジェンダー格差について3年生とともに意見交換、討論を行い、学びを深めた。 |
|        |   |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、  
すべての女性及び女性のエンパワーメントを行う

## SDG:5を取り扱った授業

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|        |   |
|--------|---|
| 専門教育科目 | 「社会学専門演習Ⅱ」  |
| 担当教員   | 松信 ひろみ（文学部 社会学科 社会学専攻）  |
| 概要     | ジェンダー平等を推進している区（東京23区内）から、区民、在勤・在学者、中学生、区職員を対象としたジェンダー平等・セクシュアリティに関する意識調査のデータ分析の委託を受け、報告書を作成するとともに、報告会を実施した。また、セクシュアル・マイノリティの当事者の方のお話も伺った。さらに、本学のダイバーシティ推進事業（NHKとのコラボレーション企画：NHKよるドラ「恋せぬふたり」のトークショー）にゼミとしてかわり、ドラマと関連付け、セクシュアル・マイノリティやジェンダー格差について2年生とともに意見交換、討論を行い、学びを深めた。 |
|        |   |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|  |                     |
|--|---------------------|
| 専門教育科目   | 「障害者・障害児心理学」        |
| 担当教員   | 鈴木 菜実子（文学部 心理学科）    |
| 概要   | 障がいとは何か、LGBTについての理解 |
| <p>障がいとは何か、障がい者の心理を学ぶこととそれによる貢献について講義を行い、質疑を受け付けた。またLGBTは障がいではないことを断ったうえで、性的マイノリティについての心理と偏見によって生じる障害について講義した。</p> |                     |
|  |                     |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 専門教育科目  | 「演習Ⅱ」                              |
| 担当教員  | 村松 幹二（経済学部 現代応用経済学科）               |
| 概要  | 「駒澤大学生の学生生活に関する調査」でLGBTに関する調査を行った。 |
| <p>アンケート調査により、駒澤大学生に占めるLGBT等の比率を割り出すとともに、LGBT等の認知度、意識、大学としての対応のあり方についても調査を行った。今後、演習全員で分析し、報告書にまとめるとともに、大学に提言を行う予定である。</p> |                                    |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|   |  |
|---|--|
| 専門教育科目  | 「憲法」                                   |
| 担当教員  | 三宅 雄彦（法学部 法律学科）                        |
| 概要  | 婚姻の自由（日本国憲法における婚姻制度、性同一性障害者と同性愛者の権利保護） |
| <p>日本国憲法24条（婚姻の自由と婚姻制度）の概要を検討し、その上で、婚外子相続差別、夫婦同姓制度、性同一性障害者と同性愛者の権利保護について、最高裁判所の重要判決に検討を加えた。</p> |  |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、  
すべての女性及び女兒のエンパワーメントを行う

## SDG:5を取り扱った授業

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| 専門教育科目   | 「比較憲法」                               |
| 担当教員   | 三宅 雄彦（法学部 法律学科）                      |
| 概要   | 婚姻制度（日独の憲法および裁判所判例における性的マイノリティの権利保護） |
| <p>日本国憲法とドイツ基本法（憲法）における婚姻制度の概略を検討しつつ、その下での、日本の最高裁判所とドイツの連邦憲法裁判所における同性愛者及び性同一性障害者の権利保護に関する重要判例とその展開を紹介した。</p> |                                      |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|   |                  |
|---|------------------|
| 専門教育科目  | 「経営労務論」          |
| 担当教員  | 鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科） |
| 概要  | 男女賃金格差問題         |
| <p>現行のマネジメントが生み出す不平等と格差是正について理解を深めた。</p>  |                  |
|   |                  |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|                                      |                      |
|--------------------------------------|----------------------|
| 全学共通科目                               | 「新入生セミナー」            |
| 担当教員                                 | 末木 恭彦（総合教育研究部 文化学部門） |
| 概要                                   | 肉体的に性差があるのは否定出来ない。   |
| <p>そんなに簡単に答えが出る問題ではないし、出してもいけない。</p> |                      |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|  |                            |
|--|----------------------------|
| 全学共通科目   | 「テーマで学ぶ日本の位相」              |
| 担当教員   | 内藤 寿子（総合教育研究部 日本文化部門）      |
| 概要   | 近現代日本社会におけるジェンダー平等のあり方について |
| <p>映像や広告など様々なメディアを題材に、女性表象や男性表象などを分析し、近現代日本社会におけるジェンダー平等のあり方について具体的な考察を行なった。</p> |                            |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、  
すべての女性及び女性のエンパワーメントを行う

## SDG:5を取り扱った授業

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|   |                            |
|---|----------------------------|
| 全学共通科目  | 「健康・スポーツ論 1」「健康・スポーツ論 2」   |
| 担当教員  | 末次 美樹（総合教育研究部 スポーツ・健康科学部門） |
| 概要  | 性のしくみ                      |
| 性のしくみでは、妊娠や出産、人工妊娠中絶等を取り扱い、避妊の重要性を中心に講義を行った。学生自身が考え「性について」のグループディスカッション等も実施した。  |                            |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>3 すべての人に<br/>健康と福祉を</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>4 質の高い教育を<br/>みんなに</p> </div> </div> |                            |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|   |                            |
|---|----------------------------|
| 全学共通科目  | 「スポーツ科学で学ぶ教養（歴史と社会Ⅰ）」      |
| 担当教員  | 末次 美樹（総合教育研究部 スポーツ・健康科学部門） |
| 概要  | スポーツにおける女性問題               |
| スポーツの様々な場面でのジェンダーバランスやバイアス、そしてその要因や背景などを中心に講義を実施した。   |                            |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>3 すべての人に<br/>健康と福祉を</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>4 質の高い教育を<br/>みんなに</p> </div> </div> |                            |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



ジェンダー平等を達成し、  
すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う

## SDG:5を取り扱った研究

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|  |                         |
|--|-------------------------|
| 教員                                       | 松信 ひろみ (文学部 社会学科 社会学専攻) |
| 概要                                       | 夫婦のパワー関係について            |
| 夫婦におけるパワー関係の平等性を実現できる要因についての理論的研究および実証研究 |                         |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|   |                                      |
|---|--------------------------------------|
| 教員  | 鈴木 菜実子 (文学部 心理学科)                    |
| 概要  | アセクシュアルという性的マイノリティについて取り上げてレビューを行った。 |
| 性的マイノリティの体験しうる偏見とメンタルヘルス従事者の無理解について取り上げた。 |                                      |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 教員  | 末次 美樹 (総合教育研究部 スポーツ・健康科学部門) |
| 概要  | 空手道関係者の属性と活動状況に関する調査        |
| 調査により、女性の活動阻害要因の一つとしてライフイベントにおける私的領域による負担と活動環境の関連が示唆された。今後の課題として、関係者が生涯にわたって活動を継続できるサポート体制の構築や組織基盤の整備が必要であることが明確となった。 |                             |
|   |                             |

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



|  |   |
|--|---|
| 教員   | 藤田 真樹 (法曹養成研究科)                             |
| 概要   | 「取締役会構成の多様化へ向けた法的課題」 (科研21K01280・基盤研究(C)代表) |
| <p>欧州において上場企業を対象として、罰則をとまなう割当制度を導入し、女性を中心とする過小評価グループから一定数の役員を選任を義務付けようとする動きがある。これに対し、米国においては、連邦レベルでは、このような割当制度を採用せず、事業報告書の開示や業界の自主規制に委ねるのみであった。しかし近年、カリフォルニア州は同州に主たる事業所を置く上場企業に対し、女性を中心とする過小評価グループから一定数の取締役を選任を義務付ける州会社法の改正を行った。他方、連邦レベルでは連邦取引所に多様性諮問委員会を設置し、情報開示を通じて取締役会の多様性を促すことを目的とした「多様性を通じた企業統治法案」が提出されている。本研究では、日米の比較のうちに、女性を中心とする過小評価グループの取締役等役員登用へ向けた取り組みについて法的・経済学的な見地から検討している。</p> |   |
|  |   |

6 安全な水とトイレ  
を世界中に



すべての人々の水と衛生の利用可能性と  
持続可能な管理を確保する

## バリアフリートイレの増設と使いやすいトイレの改修

駒澤大学では、車いすで利用できるトイレ  
やオストメイト用設備を有するトイレを複数  
設置しています。今年度はトイレの乾式化・  
洋式化・非接触型手洗水栓設置のための工事  
を行いました。また、駒沢キャンパスのバリ  
アフリートイレマップを作成しました。

駒沢キャンパス バリアフリートイレマップ (2022年3月現在)



(禅研究館)  
2階 男子トイレ



(7号館)  
バリアフリートイレ



(第1研究館)  
バリアフリートイレ



| 設置場所          | 階     | 設備 | 備考                |
|---------------|-------|----|-------------------|
| 記念講堂          | 2階    | ♿  |                   |
| 種月館(3号館)      | 1階    | ♿  | (女子トイレ個室内)        |
|               | 2階・4階 | ♿  | (多目的トイレ・女子トイレ個室内) |
|               | 5階~9階 | ♿  | (女子トイレ個室内)        |
| 種月館(緑の丘)      | 1階    | ♿  | (女子トイレ個室内)        |
| 4号館           | 1階    | ♿  |                   |
| 7号館           | 1階    | ♿  |                   |
| 8号館           | 1階    | ♿  |                   |
| 第1研究館         | 2階    | ♿  |                   |
| 第2研究館         | 1階    | ♿  |                   |
| 禅研究館          | 1階    | ♿  | (女子トイレ個室内)        |
| 禅文化歴史博物館(耕雲館) | 1階    | ♿  |                   |



## SDG:6を取り扱った授業

6 安全な水とトイレ  
を世界中に



|   |                           |
|---|---------------------------|
| 専門教育科目  | 「水文学A/B」                  |
| 担当教員  | 鈴木 秀和 (文学部 地理学科 地域環境研究専攻) |
| 概要  | 世界の水資源の現状と問題点について         |
| 日本で暮らしていると実感できない乾燥・半乾燥地域や途上国を対象に、水資源の量的質的問題(現状や解決策)について講義した回があった。 |                           |
| 15 陸の豊かさも守ろう  |                           |

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

## 駒澤大学は、「せたがや版RE100」の取り組みに賛同します

駒澤大学は、世田谷区が進める、区民・事業者・区の三者が連携して区内全体で再生可能エネルギーを利用拡大していく「せたがや版RE100」の取り組みに賛同し、賛同登録申請をしました。

本学では、SDGsに基づく取り組みを行っており、国土交通省の2014年度（第2回）住宅・建築物省CO<sub>2</sub>先導事業として採択された「開校130周年記念棟（種月館）」では、太陽光発電や自然換気窓、自然光の取入れを行っています。また新図書館（2022年開館予定）でも太陽光発電を設置するなど、今後も持続可能な社会のために再生可能エネルギーの利用を拡大していきます。

「RE100（アールイー100）」とは、地球温暖化の原因とされる温室効果ガスの削減のため、企業が事業運営で消費する電力を100%再生可能エネルギーでまかなうことを目標に掲げる取り組みです。「Renewable Energy 100%」の頭文字を取り、RE100と呼ばれており、国際的な取り組みとして注目を集めています。



## 2021年度 今夏の省エネルギー対策について

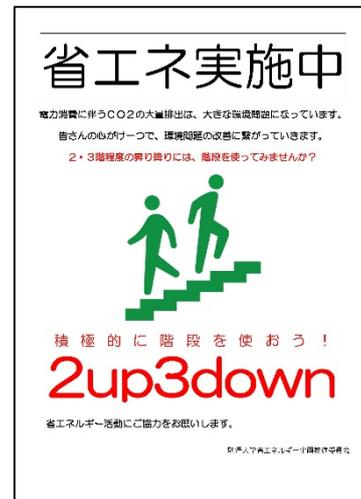
駒澤大学では、省エネルギー企画推進委員会において、夏季期間と年間の省エネルギー対策の取り組みを策定しています。

### 【今夏の省エネルギー対策】

目的：「数値目標を伴わない省エネ」に取り組む

期間：2021年7月1日～9月30日の平日

時間：9時～20時



## 2021年度 今夏の省エネルギー対策について

|   |                   |   |
|---|-------------------|---|
| 1 | 教場利用の集約           | エネルギー効率の良い3号館に教場利用を集約する。サークル等に貸し出す際はフロアごとに集約するなど、建物使用部分の制限・集約を進める。  |
| 2 | 空調の設定             | すべてのキャンパスにおいて冷房温度を原則として26℃設定とする。外気温26℃以上のとき、冷房運転をし、室内温度は26℃設定とする。<br>(第1・第2研究館各研究室も空調温度を26℃設定とする)<br><br>また、空調フィルターの定期的な清掃を実施する。<br><br>運転時間：8時30分～21時10分<br>(事務室系統は18時まで)<br>(夏季休業中は8時45分～17時) |
| 3 | トイレの節電            | 温水洗浄便座の暖房便座と温水洗浄(冷水は可)機能を停止する。<br>(便座1台あたり1回@1.3kw)   |
| 4 | エレベーターの利用制限       | 大学会館246・深沢校舎・第2研究館・法科大学院は、2台中1台、3号館は7号館側1台を停止する。<br>※エレベーターが1台のみの建物では停止をしない。<br>(エレベーター1台1hあたり10分使用@6.5kw)  |
| 5 | 3号館<br>エスカレーターの停止 | 夏期休業中は5階以上の稼働を停止する。<br>(教場利用があれば、利用階までは運転する)<br>(エスカレーター1台1hあたり10分使用@40.0kw～53.3kw)   |
| 6 | クールビズの実施          | 空調温度26℃設定維持を目指し、積極的にクールビズに取り組む。   |
| 7 | 全学休業中の<br>出勤・出講   | 全学休業期間中(7月26日～8月9日)は、設備点検による停電・断水等もあり、出勤・出講をできる限り控える。   |
| 8 | 広報活動              | 省エネルギー企画推進委員会で内容を検討し、省エネルギー推進担当者へ伝達・啓発し、ホームページ等での公表やKONECOを通じて学生へ周知し協力を求める。   |



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

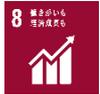


すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

## SDG:7を取り扱った授業

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



|   |                            |
|---|----------------------------|
| 専門教育科目  | 「中小企業政策論」                  |
| 担当教員  | 大前 智文（経済学部 現代応用経済学科）       |
| 概要  | 自然エネルギーを活用した地域経済・中小企業の存立基盤 |
| SDGsと中小企業との理論的・政策的な関係の把握  |                            |
|    |                            |

## SDG:7を取り扱った研究

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



|   |                          |
|---|--------------------------|
| 教員  | 鈴木 秀和（文学部 地理学科 地域環境研究専攻） |
| 概要  | 風穴（自然エネルギー）の活用           |
| 鬼押出し溶岩に存在する風穴を新たな地域資源として活用するための方策について、おもに観光客へのアンケート調査結果に基づき検討を試みた。  |                          |
|   |                          |



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

## 学内研修「meetup! Presentation & Pitch」の開催について

駒澤大学では、職種や部署を越えて、知識や情報、成果が上がっていること、及び課題などを学内全体で共有し業務等へ活用すべく、教職員研修の一環として、2017年度より「meetup! Presentation & Pitch」を実施しています。

### 【第1回】「大学が博物館を持つ意義は？」

日時：2021年7月15日（木）11：00～11：30（Google Meet）  
発表：山下 純平（禅文化歴史博物館 係長）

### 【第2回】「キャリアコンサルティング理論と学生面談への活用」

日時：2021年7月20日（火）14：00～14：30（Google Meet）  
発表：奥村 亮介（キャリアセンター 係員）

### 【第3回】「駒澤大学の可能性を探る―出身大学の取り組み紹介―」

日時：2021年12月20日（月）14：00～14：30（Google Meet）  
発表：入職2年目一同（計7名）

### 【第4回】「学生部は学生支援センターに変わります！」

―学生部の改組により目指す、新たな学生支援の概要―  
日時：2022年3月8日（火）15：00～15：30（Google Meet）  
発表：鈴木 弘道（学生部 係長）



## 令和3年度教職員研修会

### 「ダイバーシティ推進事業に係る第2回研修会」の開催

駒澤大学では、ダイバーシティ推進事業として教職員研修会を開催しています。本学の一般事業主行動計画では「個及び多様性を尊重し、働く上での機会の平等を実現する」という計画目標を掲げています。

そこで、駒澤大学内の教職員における、ダイバーシティ&インクルージョンについて考える機会として、世間の中でも先進を行く企業からダイバーシティ推進に従事しているご担当者をお招きし、講演いただきました。

### 【第2回】「働き方の多様性」

日時：2021年12月9日（木）14：30～16：10 ※オンライン開催  
講師：企業においてダイバーシティ推進に従事されているご担当者



8 働きがいも  
経済成長も



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

## SDG:8を取り扱った授業

8 働きがいも  
経済成長も



|                              |                  |
|------------------------------|------------------|
| 専門教育科目                       | 「演習Ⅱ」            |
| 担当教員                         | 鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科） |
| 概要                           | 賃金格差問題           |
| 企業行動と社会政策の結果、不平等が増していることを紹介。 |                  |
|                              |                  |

8 働きがいも  
経済成長も



|   |                  |
|---|------------------|
| 大学院科目   | 「経営労務論特講【講義】」    |
| 担当教員  | 鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科） |
| 概要  | テレワークの社会的影響      |
| テレワークの上手な利活用が省資源につながり、これまで働きづらかった人たちが働ける環境を作り出すことを研究した。 |                  |
|   |                  |

## SDG:8を取り扱った研究

8 働きがいも  
経済成長も



|  |   |
|--|---|
| 教員   | 松田 健（経済学部 現代応用経済学科）   |
| 概要   | 論文執筆（『明大商学論叢』年度内発行予定）<br>タイトル「ドイツ企業のトップ・マネジメント層におけるダイバーシティ」 |
| カテゴリ：ジェンダー平等<br>論文内容：ドイツ企業のトップマネジメント層における、女性登用の制度的背景と法整備について |   |

8 働きがいも  
経済成長も



|                     |                  |
|---------------------|------------------|
| 教員                  | 鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科） |
| 概要                  | テレワークの社会的影響      |
| 労働者の不平等を是正する可能性について |                  |
|                     |                  |



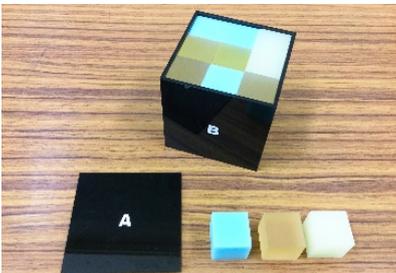
強靱（レジリエント）なインフラ構築、  
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び  
イノベーションの推進を図る

## 医療健康科学部の志村・近藤ゼミの学生チームが 「第2回ブラックボックスコンテスト」で優勝 【研究・授業】

2021年11月23日（火）に医療健康科学部の志村一男准教授と近藤啓介准教授が、X線画像教材を使ったコンテストである「第2回ブラックボックスコンテスト」（共催：株式会社京都科学）を開催しました。今回は駒澤大学の4チームと杏林大学の3チームが参加し、志村・近藤ゼミのチームが優勝しました。

このコンテストは、近藤啓介准教授が開発したX線の画像特性を学ぶことができるファントム「XCUBEFAN」という教材を使用して実施されるもので、専門知識を利用した創造力や考察力、そしてチーム力を育成することを目的としています。

X線吸収率の異なる立方体3種類がそれぞれ9個ずつあり、計27個の立方体を縦横高さ各3個ずつ入る「ブラックボックス」の中に任意の配置で格納し、ブラックボックスを多方向から撮影したX線画像をもとに、ボックス内の立方体の配置や種類を解析します。少ない撮影回数で、多くの立方体の種類を当てることができると高得点となります。優勝した志村・近藤ゼミの学生チームは、4回のX線撮影で27個全ての立方体の種類を正解しました。



## 医療健康科学部の新井知大講師が新型コロナウイルス感染症陽性患者を 初期診断するエックス線診療車の開発に携わりました 【研究・授業】

医療健康科学部の新井知大講師が、新型コロナウイルス感染症陽性患者を病院外で初期診断するエックス線診療車の開発に携わりました。

エックス線診療車は、胸部エックス線撮影装置を搭載した車両に、感染防護のための換気機能、オンライン診療できる医療情報伝送システム、初期診療に必要な医療機器を搭載しています。これによって、新型コロナウイルス感染症陽性患者のメディカルチェックを病院外で行うことができるため、一般患者との接触を防ぎ、検査室での陰性患者との同席を回避できるので、必要な検査を迅速に行えるようになります。



9 産業と技術革新の  
基盤をつくろう



強靱（レジリエント）なインフラ構築、  
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及び  
イノベーションの推進を図る

## SDG:9を取り扱った授業

9 産業と技術革新の  
基盤をつくろう



|   |                               |
|---|-------------------------------|
| 専門教育科目  | 「企業管理論 b」                     |
| 担当教員  | 岩波 文孝（経済学部 現代応用経済学科）          |
| 概要  | 企業と社会をめぐるマネジメントの諸課題【CSVとSDGs】 |
| 現代資本主義における企業と社会の関係性に関して、株主資本主義からステークホルダー資本主義への転換・実現に向けたマネジメントの現状と課題を講義した。   |                               |
|    |                               |

## SDG:9を取り扱った研究

9 産業と技術革新の  
基盤をつくろう



|  |                          |
|--|--------------------------|
| 教員   | 瀬戸 寿一（文学部 地理学科 地域文化研究専攻） |
| 概要   | 3D都市モデルの整備と活用に関する研究      |
| 近年、デジタルツインやスマートシティで注目されている詳細な地理空間情報の一つである3次元都市モデルについて、国内での整備状況や海外都市での活用事例について調査研究を進めている。 |                          |
|       |                          |

10 人や国の不平等  
をなくそう



国内及び各国家間の不平等を是正する

## 令和3年度教職員研修会

### 「ダイバーシティ推進事業に係る第1回研修会」の開催

駒澤大学では、ダイバーシティ推進事業として教職員研修会を開催しています。

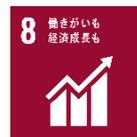
グローバル化が進展する中で、様々なルーツを持つ人々がともに暮らす社会の実現が大きな課題となっています。そして、大学においても多様なルーツをもつ学生と接する機会のある教職員にとって、多様なルーツをもつ人々の現状と課題について知ることは、ダイバーシティを理解するという意味で非常に重要なことです。

今回の研修では、法学部政治学科の山崎望教授に、日本における在日朝鮮・韓国人の事例を中心として、多文化・民族の共生社会の可能性について、政治学の観点から講演いただきました。

#### 【第1回】「多文化・民族の共生の社会へ向けて」

日時：2021年10月7日（木）16：20～18：00 ※オンライン開催

講師：山崎望（法学部政治学科教授）



## 令和3年度教職員研修会

### 「ダイバーシティ推進事業に係る第3回研修会」の開催

駒澤大学では、ダイバーシティ推進事業として教職員研修会を開催しています。

禅・仏教の精神に則って教育を行う駒澤大学では、思いやりの心と学生相互が尊敬し合うという精神を重んじます。この精神に立って、障がいに基づく一切の差別をなくし、すべての学生が平等な教育の機会を享受できる大学環境づくりを進め、差別のない平等な機会を提供するために、「駒澤大学障がい学生支援方針」を掲げ、障がい学生支援に取り組んでいます。

#### 【第3回】「本学における障がい学生支援の実際」

日時：2022年1月21日（金）14：00～15：30 ※オンライン開催

講師：渡邊浩司（学生部学生支援相談課専任カウンセラー  
兼 障がい学生支援コーディネーター）



10 人や国の不平等をなくそう



国内及び各国家間の不平等を是正する

SDG:10を取り扱った授業

10 人や国の不平等をなくそう



|                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 専門教育科目              | 「医療宗教学」「文化と宗教（２）※全学共通科目」 |
| 担当教員                | 木村 誠司（仏教学部 仏教学科）         |
| 概要                  | ソローとエマーソン                |
| SDGsの先駆者とも言われる人物の素描 |                          |
| 12 つくる責任<br>つかう責任   |                          |

10 人や国の不平等をなくそう



|        |  |
|--------|--|
| 専門教育科目 | 「多文化社会論」   |
| 担当教員   | 土田 久美子（文学部 社会学科 社会学専攻）                             |
| 概要     | 授業全体が多文化社会、特に多様な文化的バックグラウンドをもつ人々の共生を考えることを目的としていた。 |
|        |  |

10 人や国の不平等をなくそう



|  |                  |
|--|------------------|
| 専門教育科目                                       | 「演習Ⅲ」            |
| 担当教員   | 鹿嶋 秀晃（経営学部 経営学科） |
| 概要   | 外国人技能実習制度について    |
| 技能実習制度が本来の目的を外れ、コスト削減のために利用されている問題点について研究した。 |                  |
|  |                  |

SDG:10を取り扱った研究

10 人や国の不平等をなくそう



|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 教員 | 濱田 国佑（文学部 社会学科 社会学専攻）           |
| 概要 | 日本社会における格差・不平等と社会意識の分断との関係性について |
|    |                                 |



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で  
持続可能な都市及び人間居住を実現する

## 東京都歴史的建造物「耕雲館」

駒沢キャンパスの中で高層の建物に囲まれながらも、堂々とした風格を備えた鉄骨鉄筋コンクリート造り、スクラッチタイル貼りの「耕雲館」。現在は「禅文化歴史博物館」として広く公開しています。

菅原 榮蔵（1892-1968）の設計で、1928（昭和3）年に図書館として建設されました。1973（昭和48）年、現図書館が完成すると、宗教行事も行う癒しの場「耕雲館」としてその役割を担うことになりました。1999（平成11）年、「東京都歴史的建造物」に選定されたことを契機に博物館としてリニューアル計画が進められ、資料保存を考慮した館内環境の確保と建物の外観保存との両立を目指しました。



常設展示室は、寺院建築風の床材や、掛軸を模した解説パネルで、禅寺の静寂な空間を再現し、東洋文化の「禅」と西洋建築との調和を図っています。また、車椅子昇降機、エレベーター、専用トイレ等を設置し、バリアフリー、ユニバーサルデザインも考慮しました。本学では、今後も「耕雲館」を維持・管理し、地域における文化の拠点のシンボルとして持続可能なまちづくりの実現に貢献します。



## 自衛消防隊について

駒澤大学では、「自衛消防隊」を組織し、学内の防災と安全に努めています。

これまでも玉川消防署主催の「自衛消防活動技術大会」で本学職員が組織したチームが好成績を収めています。本大会は、火災が発生したことを想定して、初期消火から119番通報・避難誘導・屋内消火栓の操作による消火活動・消防隊への情報提供までの一連の活動を審査するもので、行動審査を得点化し順位が決定されます。

また、2021年11月5日（金）に世田谷消防署より、2020年度までの本学自衛消防隊の活動に対し、「自衛消防の組織業務適切功勞（団体）」として表彰を受けました。





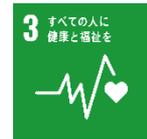
包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で  
持続可能な都市及び人間居住を実現する

## 経済学部の長山宗広ゼミが世田谷区馬事公苑コミュニティデザイン プロジェクトにブース出展 【研究・授業】

経済学部の長山宗広ゼミが、2021年11月23日（火）にJRA馬事公苑前けやき広場で  
行われた「bajico（世田谷区馬事公苑界わいコミュニティデザインプロジェクト）」の  
イベントにブース出展しました。

イベントのテーマは「世田谷bajicoシャルソン」です。シャルソンとはソーシャルマ  
ラソンの略であり、走りながら（歩きながら）人との出会いや体験を楽しむもので、競  
うのは「記録」ではなく「記憶」です。マラソンコースでは、bajico代表のNPO法人子  
育て支援グループamigoのほか、地元企業や地域住民の方々による各種ワークショップ  
が行われました。

長山ゼミでは、子供向けに「落ち葉しおり作り」と「青空図書館」のブースを出展し、  
当日は約85人の方がブースに立ち寄っていただきました。



## 経営学部の小野瀬 拡ゼミが世田谷区による 「ひとり親世帯家賃低廉化補助事業」の制度告知のための ポスター作成に協力しました 【研究・授業】

経営学部の小野瀬 拡ゼミが、世田谷区による「ひとり親世帯家賃低廉化補助事業」  
の制度告知のためのポスター作成に協力しました。これは、なかなか理解されづらい行  
政の支援制度を多くの人に親しみやすく広く知らせるために、世田谷区都市整備政策部  
と小野瀬ゼミが協力して行ったプロジェクトの一環で、小野瀬ゼミの学生は、支援制度  
についてグラフィカルに伝えることができるデザインの作成に取り組みました。



今回は、「ひとり親世帯家賃低廉化補助事業」の案内チラシの  
制作を行い、学生によって制作された49のデザインの中から、  
酒井 優衣 さん（経営学部経営学科3年）の作品が採用されました。





包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で  
持続可能な都市及び人間居住を実現する

## グローバル・メディア・スタディーズ学部の服部哲ゼミが活動成果を 「せたがや国際交流センター」に展示しました【研究・授業】

グローバル・メディア・スタディーズ学部の服部哲ゼミの2・3年生の活動成果が、せたがや国際交流センターでパネル展示「駒澤大学の学生による多文化共生の展示」として2021年4月中旬まで展示されました。

服部ゼミでは2016年度より世田谷区と協力し「せたがや国際化プロジェクト」の一環として世田谷区の魅力を国内外に発信する取り組みを進めており、この取り組みがきっかけで2020年4月にオープンした「せたがや国際交流センター」でのパネル展示が実現しました。

2年生は「共生支援ポータルサイト作り」をテーマに、世田谷区に住む外国人との共生を目的として、世田谷区の現状を調査した結果を踏まえ「留学生の交流を図る」、「世田谷区民から情報やアイデアを集める」などの機能を備えたポータルサイトの提案を行いました。

3年生は「プログラミング学習支援サイト作り～『優しい』サイトと学びを共に～」というテーマで、これからプログラミング学習を始める人に役立ててもらうことをコンセプトに、学生自身がプログラミングについて学んだことを発信しました。



11 住み続けられる  
まちづくりを



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で  
持続可能な都市及び人間居住を実現する

## SDG:11を取り扱った授業

11 住み続けられる  
まちづくりを



|        |   |
|--------|---|
| 専門教育科目 | 「交通地理学A/B」  |
| 担当教員   | 土'谷 敏治（文学部 地理学科 地域文化研究専攻）   |
| 概要     | 公共交通利用促進のための課題<br>自動車利用から公共交通利用へ、モーダルシフトの推進                                       |
|        |  |

11 住み続けられる  
まちづくりを



|        |   |
|--------|---|
| 専門教育科目 | 「地域文化調査法（現地調査含む）C」  |
| 担当教員   | 瀬戸 寿一（文学部 地理学科 地域文化研究専攻）  |
| 概要     | 情報化とまちづくり<br>地域資源とオープンデータを活用した観光まちづくりに関する調査を企画実施                                    |
|        |  |

11 住み続けられる  
まちづくりを



|        |  |
|--------|--|
| 専門教育科目 | 「考古学発掘実習Ⅰ」   |
| 担当教員   | 角道 亮介（文学部 歴史学科 考古学専攻）  |
| 概要     | 川角古墳群（埼玉県毛呂山町）での測量調査の実施<br>地域における文化財保護とその継承（資料整理・調査報告書の作成）を目的とし、毛呂山町教育委員会と協力し川角古墳群にたいして測量調査を行った。 |
|        |               |

11 住み続けられる  
まちづくりを



|        |  |
|--------|--|
| 専門教育科目 | 「考古学発掘実習Ⅱ」   |
| 担当教員   | 角道 亮介（文学部 歴史学科 考古学専攻）  |
| 概要     | 新沼窯跡（埼玉県鳩山町）における発掘調査（試掘調査）の実施<br>地域における文化財保護とその継承（資料整理・調査報告書の作成）を目的とし、鳩山町教育委員会と協力し新沼窯跡にたいして試掘調査を行った。 |
|        |                   |

11 住み続けられる  
まちづくりを



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で  
持続可能な都市及び人間居住を実現する

## SDG:11を取り扱った授業

11 住み続けられる  
まちづくりを



|        |   |
|--------|---|
| 専門教育科目 | 「社会学専門演習Ⅱ」  |
| 担当教員   | 濱田 国佑（文学部 社会学科 社会学専攻）                                       |
| 概要     | 観光による地域社会の活性化について<br>フィールドワークの結果をもとに、地域社会の課題の解決策について考察を行った。 |
|        |   |

11 住み続けられる  
まちづくりを



|        |  |
|--------|--|
| 専門教育科目 | 「演習Ⅱ」  |
| 担当教員   | 中村 公一（経営学部 経営学科）   |
| 概要     | 世田谷区の空き家対策への提言<br>授業では、フィールド・ワークや地域活性化支援等の実践として「世田谷区空き家等状況調査」を実施し、実際の活用方法についてのプランをまとめた。各プランについては、本学経済学部現代応用経済学科ラボラトリ主催の社会連携ゼミ交流会で報告を行った。 |

## SDG:11を取り扱った研究

11 住み続けられる  
まちづくりを



|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 教員 | 土'谷 敏治（文学部 地理学科 地域文化研究専攻）          |
| 概要 | 公共交通利用推進の課題<br>公共交通機関利用の実態と利用促進の課題 |
|    |                                    |

11 住み続けられる  
まちづくりを



|    |   |
|----|---|
| 教員 | 高田 実宗（法学部 法律学科）   |
| 概要 | 交通基盤の保障を支える法制度および法理論の研究<br>高齢人口減少社会においても、交通基盤を維持していくために、それを支える法制度および法理論について、ドイツとの比較法研究を行った。本研究では、新たなモビリティ形態に適合した法的枠組みの構築を図っている。 |
|    |   |



## 「食」支援プロジェクト第1弾 「SDGs『そのままカレー』を無駄にしない！」を開催

2021年5月18日（火）～20日（木）に駒沢キャンパス記念講堂で、学生への「食」支援プロジェクト第1弾として「SDGs『そのままカレー』を無駄にしない！」を開催しました。

本学では、災害発生時に必要となる食料や水、生活用品等を備蓄しています。今回は、防災備蓄品のうち賞味期限が近くなった食品「そのままご飯 カレーライス」6,000食を無償配布しました。



## 「食」支援プロジェクト第3弾 「食べて、学んで、SDGs」を開催

2021年11月15日（月）～19日（金）に駒沢キャンパス記念講堂で、学生への「食」支援プロジェクト第3弾として「食べて、学んで、SDGs」を開催しました。

今回はフードロス対策として、賞味期限が近づいているものを中心に多くの食品を購入しました。また、株式会社StockBaseの仲介により、株式会社富士通エフサスから余剰在庫となっていたノベルティ文具、森ビル株式会社から賞味期限の近い非常用備蓄食品を無償で提供していただきました。このほか、生理用品・感染予防グッズ等、多くの品々を無償配布しました。



12 つくる責任  
つかう責任



持続可能な消費生産形態を確保する

## SDG:12を取り扱った授業

12 つくる責任  
つかう責任



|   |   |
|---|---|
| 専門教育科目  | 「現代企業論B」  |
| 担当教員  | 小本 恵照（経営学部 市場戦略学科）  |
| 概要  | 企業の社会的責任  |
| 企業の社会的責任の概要を説明するとともに、脱炭素経営や気候変動対策といった最近の話題も取り上げ解説した。                              |   |
|  |  |

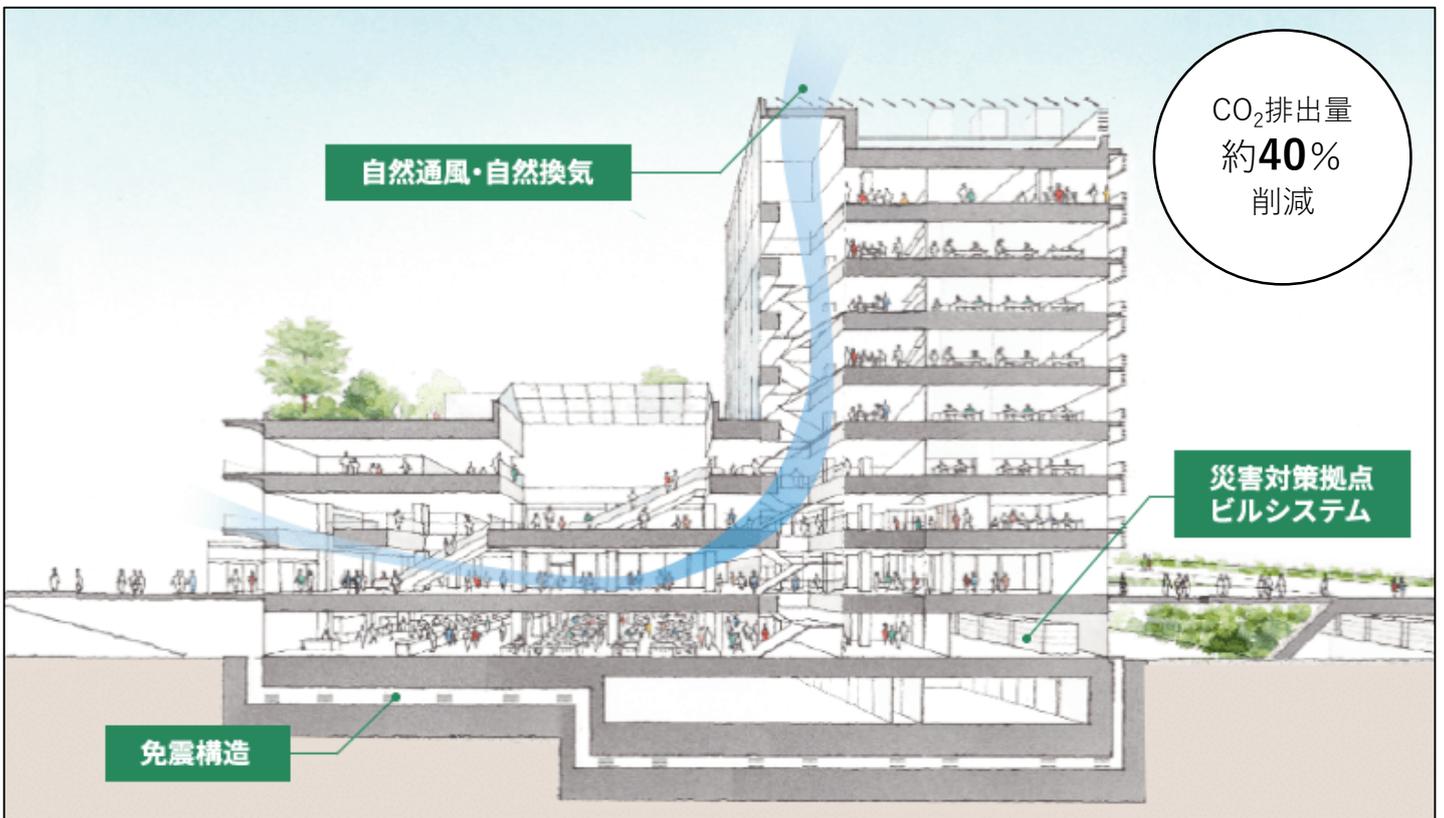


## 気候変動及びその影響を軽減するための 緊急対策を講じる

### 国土交通省「住宅・建築物省CO<sub>2</sub>先導事業」に採択された「種月館」

「種月館」は、国土交通省の2014年度（第2回）住宅・建築物省CO<sub>2</sub>先導事業」に採択されました。これは、省CO<sub>2</sub>の実現性に優れたリーディングプロジェクトとなる住宅・建築プロジェクトを国が支援することで、省CO<sub>2</sub>対策の推進や住居・生産環境の向上などを図ることを目的とする事業です。採択にあたっては、恵まれた環境に位置する特性を活かしたバランスの良い設計計画やICTを活用した設備の最適制御などが評価されました。

日常の省CO<sub>2</sub>だけでなく災害対応拠点としてBCP（Business Continuity Plan：災害などリスクが発生したときに重要業務が中断しないこと、また、万一事業活動が中断した場合でも、目標復旧時間内に重要な機能を再開させ、業務中断に伴うリスクを最低限にするために、平時から事業継続について戦略的に準備しておく計画）にも寄与します。



13 気候変動に  
具体的な対策を



## 気候変動及びその影響を軽減するための 緊急対策を講じる

### SDG:13を取り扱った授業

13 気候変動に  
具体的な対策を



|   |                 |
|---|-----------------|
| 専門教育科目  | 「行政救済法」         |
| 担当教員  | 高田 実宗（法学部 法律学科） |
| 概要  | 環境訴訟について        |
| <p>行政救済法の講義では、公害や水害に端を発する行政訴訟について分析を加え、環境保護を目的とした法制度の展開を取り上げた。経済を持続的に発展させつつ、いかに環境を保護していくかという現代的な課題について、受講者自身に考えてもらうことが本講義の狙いであった。</p> |                 |
|   |                 |

13 気候変動に  
具体的な対策を



|   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 全学共通科目  | 「倫理学（6）」                            |
| 担当教員  | 滝沢 正之（総合教育研究部 文化学部門）                |
| 概要  | 生物多様性、環境正義、気候変動問題、食農倫理学など、おもに地球環境問題 |
| <p>環境倫理学で論じられる以下のような話題を紹介、検討した。生物多様性をもつとされる価値にどのような種類があるか。環境問題と人種差別はどのように関係しているか。気候変動対策の負担の国際的な分配はどのような論理にもとづいてなされるべきか。肉食に反対する論証にどのようなものがあるか。</p> |                                     |

13 気候変動に  
具体的な対策を



|  |                        |
|--|------------------------|
| 全学共通科目   | 教養特殊講義（自然）             |
| 担当教員   | 坂野井 和代（総合教育研究部 自然科学部門） |
| 概要   | 外部講師の方による講演            |
| <p>「里山保全、ガラパゴス諸島におけるSDGs活動（SDG12～15）」<br/>                 「介護にAIを活用すること（SDG3,9）」<br/>                 「政治への女性の参加（SDG5）」<br/>                 「データサイエンス・AIの活用（SDG9）」</p> |                        |
|  |                        |

13 気候変動に  
具体的な対策を



|  |   |
|--|---|
| 全学共通科目   | 「太陽系・地球環境システム入門」                            |
| 担当教員   | 坂野井 和代（総合教育研究部 自然科学部門）                      |
| 概要   | 地球温暖化の仕組み・基礎知識について解説、IPCCの報告書、COP21等についての解説 |
| <p>地球温暖化の仕組みや影響を正しく理解する。対策について科学的な視点から解説し、できるだけ事実を理解してもらう。</p> |   |

13 気候変動に  
具体的な対策を



## 気候変動及びその影響を軽減するための 緊急対策を講じる

### SDG:13を取り扱った授業

13 気候変動に  
具体的な対策を



|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 全学共通科目 | 「生涯スポーツ演習Ⅱ」                 |
| 担当教員   | 出井 章雅 (総合教育研究部 スポーツ・健康科学部門) |
| 概要     | 人工雪と天然雪の違いについて              |
|        |                             |

### SDG:13を取り扱った研究

13 気候変動に  
具体的な対策を



|    |                           |
|----|---------------------------|
| 教員 | 鈴木 重雄 (文学部 地理学科 地域環境研究専攻) |
| 概要 | 種多様性を考慮した竹林管理方法の開発        |

13 気候変動に  
具体的な対策を



|                           |  |
|---------------------------|--|
| 教員                        | 坂野井 和代 (総合教育研究部 自然科学部門)                          |
| 概要                        | 地球温暖化に伴って発生頻度が増えたり、発生場所が拡大している「夜光雲」について観測研究を行った。 |
| 地球温暖化の影響がどの程度まで広がっているかを検討 |  |

14 海の豊かさを  
守ろう



持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、  
持続可能な形で利用する

## 経営学部 専門教育科目「ベンチャー企業論A」で 「株式会社キミカ」の笠原 文善 代表が講義 ～アルギン酸に向けた企業の戦略と経営～ 【研究・授業】

2021年6月25日（金）に、経営学部専門教育科目「ベンチャー企業論A（担当：経営学部 小野瀬 拓 教授）」において、アルギン酸の製造販売を行う「株式会社キミカ」代表の笠原 文善氏をお招きしてお話しいただきました。

アルギン酸とは、昆布やワカメ等に代表される海藻（褐藻類）から抽出される天然の食物繊維であり、ぬめり成分です。食品や繊維加工に使用されることで有名ですが、最近では再生医療などの領域でも使用されるものです。アルギン酸の原料となる海藻は、海の中で二酸化炭素を吸収し、酸素を生み出しますが、打ち上げられれば腐敗し、二酸化炭素（ゴミ）に戻ります。

1941年の創業以来アルギン酸一筋で成長してきた「キミカ」は、この朽ち果て二酸化炭素へと戻りゆく運命にある漂着海藻のみを有効活用している事が認められ、2020年に「第4回ジャパンSDGsアワード」の「SDGsパートナーシップ賞（特別賞）」を受賞されました。

授業では、「キミカ」の歴史と理念、そしてSDGsについての取り組みをご紹介いただきました。授業終了後、学生からは「困難に立ち向かうときに積極的に挑戦することの大切さがわかりました」といった感想が寄せられました。



14 海の豊かさを  
守ろう



持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、  
持続可能な形で利用する

## SDG:14を取り扱った授業

14 海の豊かさを  
守ろう



|  |                         |
|--|-------------------------|
| 専門教育科目   | 「西洋史特講ⅤⅢ」               |
| 担当教員   | 高田 良太 (文学部 歴史学科 外国史学専攻) |
| 概要   | ヴェネツィアの環境への取り組みの歴史      |
| <p>潟湖に浮かぶ都市であるヴェネツィアが、潟湖の環境維持のために15世紀頃から行ってきた様々な取り組みを紹介した。</p> |                         |
|  |                         |

14 海の豊かさを  
守ろう



|  |                     |
|--|---------------------|
| 専門教育科目   | 「ベンチャー企業論A」         |
| 担当教員   | 小野瀬 拓 (経営学部 市場戦略学科) |
| 概要   | アルギン酸にかけた企業の戦略と経営   |
| <p>アルギン酸の製造販売を行う「株式会社キミカ」代表の笠原文善氏による講演。<br/>(詳細は前頁SDG14の取り組みを参照)</p> |                     |
|  |                     |

15 陸の豊かさも  
守ろう



陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

## 経済学部の吉田健太郎ゼミが産学連携プロジェクトの一環で「そらマルシェ」に参加 【研究・授業】

経済学部の吉田健太郎ゼミの学生9人が、「ラ・メゾン」を運営する株式会社ピー・エス・コープとの産学連携プロジェクトの一環としてタルト2種を開発し、2021年11月27日（土）にラ・メゾンセンター北店で開催されたイベント「そらマルシェ」での販売を実施しました。

「そらマルシェ」とは、ラ・メゾンを運営する株式会社ピー・エス・コープが契約農場から直接仕入れた農薬不使用の旬の野菜や果物を販売するイベントです。

吉田ゼミでは数年前から株式会社ピー・エス・コープと新商品開発や販売方法の戦略構築について研究を行っており、今回は「ウィズコロナ・アフターコロナにおける飲食業における商品開発・販売戦略」という研究テーマのもと、企業、生産者、顧客までを含めたパートナーシップによる共創価値を作り出していく仕組みを提案するとともに、その提案が有効であるか検証することを目指しました。

吉田ゼミが開発したタルトは、神奈川県産の安納芋と北海道産のカボチャを使用した「～秋の味覚 芋掘り～ 安納芋と栗天下かぼちゃのモンブランプリンタルト」と、山梨県産のラフランス・神奈川県産のアップルキウイ・長野県産のりんごを使用した「～秋の味覚 果物狩り～ 山形県産ラフランスのフレッシュフルーツタルト」の2種類で、「そらマルシェ」での販売当日はセット価格1,500円で50セットを完売しました。



～秋の味覚 果物狩り～  
山形県産ラフランスのフレッシュフルーツタルト



～秋の味覚 芋掘り～  
安納芋と栗天下かぼちゃのモンブランプリンタルト



## 地域環境クリーン活動について

駒澤大学では、恒常的に地域貢献を図る活動の一環として、定期的に駒沢キャンパスと大学周辺地域の清掃を行う「地域環境クリーン活動」を実施しています。

現在は新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見合わせていますが、今後も地域の美化、学生へのマナー向上啓発を目的としたこの活動を行っていきます。



15 陸の豊かさも  
守ろう



陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

## SDG:15を取り扱った授業

15 陸の豊かさも  
守ろう



|  |  |
|--|--|
| 専門教育科目   | 「応用地理学A」   |
| 担当教員   | 鈴木 重雄（文学部 地理学科 地域環境研究専攻）   |
| 概要   | 生物多様性、外来種の進入、物質循環、耕作地・ため池の生態系、草原の生態系、林業と森林の保全、雑木林の生態系、里山の生態系の危機、ランドスケープ・デザインと順応的管理 |
| 授業では、特に地域の生態系で生じている課題がなぜ起こるかを紹介した後、里山の生態系で生じている問題（管理放棄によって生じる生態系の変化や外来種の侵入など）を取り上げ、これらの対策の一例として、ランドスケープ・デザインや順応的管理の説明をおこなった。 |  |
|   |   |

16 平和と公正を  
すべての人に



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

## 法科大学院「市民ロースクール」

駒澤大学法科大学院では、世田谷区にある唯一の法科大学院として、身近な法律の問題に関する情報や知識を提供するための連続講座、「市民ロースクール」を開催しています。

第16回 市民ロースクール 【2021年 7月10日（土）10：00～11：30】  
「学校問題への対応の仕方 ～教職員の視点、生徒・保護者の視点～」

第17回 市民ロースクール 【2021年11月27日（土）10：00～11：30】  
「もしもあなたの身近な人が突然逮捕されてしまったら...」



## SDG:16を取り扱った研究



|   |  |
|---|--|
| 教 員   | 土田 久美子（文学部 社会学科 社会学専攻）                     |
| 概 要   | エスニック・マイノリティによる社会的公正を求める社会運動をテーマとした研究を行った。 |
|   |  |



|   |  |
|---|--|
| 教 員   | 村山 元理（経営学部 経営学科）   |
| 概 要   | 「パーパスは経営理念か」（『駒大経営研究』第53巻第3・4号、2022年）<br>「サステナブル経営の宗教的・神学的背景—天理教の貸しもの・借りものの思想」（『サステナビリティ研究』Vol.1、日本経営倫理学会発行、2021年） |
| <p>Purpose経営が隆盛になっている背景として、環境・人権の問題があり、それはSDGsのキーワードでもあるサステナビリティと直結していることを前者の論文で論じた。後者の論文では、SDGsの宗教的・哲学的背景について論じた。</p>  |  |
|    |  |



持続可能な開発のための実施手段を強化し、  
グローバル・パートナーシップを活性化する

## 学術研究推進部に「社会連携センター」を設置しました

2021年4月1日より、「駒澤大学社会連携・社会貢献に関する基本方針」を具現化する組織として、本学に「社会連携センター」を開設しました。

当センターの主な機能は、社会や地域と学内を繋ぐリエゾン（連携）機能と、本学の社会連携や社会貢献活動の情報を収集し、活用・発信する機能、そして「駒澤大学産学官連携ポリシー」に基づき、受託研究・学外共同研究の受入れ、寄付講座の開講促進などがあります。

今後も「研究成果の社会への還元」と「大学と社会が協働して課題を発見・共有し、新たな価値を生み出す活動」を本学の社会的使命とし、地域社会や国・地方公共団体、産業界等との連携を積極的に進めてまいります。



## 「食」支援プロジェクト第2弾「食に願いを@七夕」を開催

2021年7月5日（月）～9日（金）に駒沢キャンパス記念講堂で、学生への「食」支援プロジェクト第2弾として「食に願いを@七夕」を開催しました。

本学の附属高校所在地である北海道苫小牧市の名物「ほっきカレー（レトルト）」と、福島県産の「お米」および「ペットボトル水」などの配布しました。

レトルトカレーと米、水は、マルトマ苫小牧卸売株式会社（ほっきカレー）、株式会社大賀商店（お米）、福島市水道局（ペットボトル水「ふくしまの水」）から学生応援価格または特別協賛価格で購入しました。米と水については、福島県への応援も兼ねて購入しています。

また、同プロジェクトに賛同する企業（カルビー株式会社、敷島製パン株式会社）・団体（全国包装米飯協会）からも人気商品の無償提供を受け、約3,000人の学生に食品を配布しました。各企業からの支援を受け、学生の空腹だけでなく心も満たすサポートとなりました。



# 駒澤大学社会連携・社会貢献に関する基本方針

駒澤大学（以下、本学）では、建学の理念のもと、自分の道を見つけ出すための"よりどころ"として、こころ（自分と向き合い、学びと繋がりを通して心を育む）・まなび（多元的・学際的な学びによる多様な知と、専門性の追求による最先端の知）・つながり（様々な価値観や広い社会につながる、豊かで温かな人的ネットワーク）をコンセプトに、教育・研究等の諸活動を展開しています。このコンセプトを実現するための社会連携・社会貢献に関する基本方針を以下のとおり定めます。

## 1.研究成果の社会への還元と教育・研究活動に対する理解の促進

産学連携事業の推進、各種寄付講座の設置等を通じて、「研究成果の社会への還元」と「大学と社会が協働して課題を発見・共有し、新たな価値を生み出す活動」を、教育・研究の多様なネットワークを通じて展開します。また、教育・研究活動の情報を積極的に発信するとともに、施設公開や公開授業の拡充などにより、教育・研究活動をより見えやすいものとし、社会の理解を促進します。

## 2.卒業生等との連携

卒業生等が参画する活動の実施、卒業生等への情報発信及び交流などを通じて、社会の多様な分野で活躍している卒業生や、大学の教育・研究活動の理解者である幅広い人々との緊密なネットワークを形成し、相互に連携することを推進します。

## 3.社会人向け教育プログラムの推進

社会人を積極的に受け入れる柔軟な教育システムの構築・運用、社会人向け教育プログラムの開発・実施などを通じて、社会人再教育機能の充実・強化や高度専門職業人の育成のため、社会と連携する多様な教育活動を推進します。

## 4.地域等との連携

地域等（自治体、国、国際機関等の公的機関、NPO法人、他大学など）と連携し、本学及び地域等が有する資源を相互に活用し、双方の発展に貢献します。また、地域等の初等・中等教育との連携を促進し、教育・研究の一層の充実並びに地域社会における教育活動及び教育環境の向上に取り組みます。

## 5.適切な社会連携・社会貢献を実現するための組織構築

社会連携・社会貢献活動を適切に展開するために、必要な事務組織及び委員会組織等を整備し、情報を集約・管理・発信するシステムを構築します。また、自己点検・評価等に基づきながら、恒常的に改善・向上に努めます。

以上





## 持続可能な開発のための実施手段を強化し、 グローバル・パートナーシップを活性化する

### 受託研究・寄付講座

駒澤大学では、産学連携事業の推進として、受託研究の受入れ、および寄付講座の設置等により、「研究成果の社会への還元」と「大学と社会が協働して課題を発見・共有し、新たな価値を生み出す活動」を展開しています。

#### 【2021年度 受託研究】

|              |   |
|--------------|---|
| 本学教員         | 姉齒 暁（経済学部 商学科）  |
| 委託者          | 一般財団法人 下越農民会館   |
| 研究課題         | 継続課題：社会福祉としての食と農のあり方を考える<br>新規課題：①スウェーデン、ルンド市における高齢者の食を支えるシステムについて<br>～日本への応用可能性を検証する<br>②スウェーデンにおける地域活性化策の調査<br>～エコツーリズムと地域活性化の可能性について |
| 研究目的<br>(内容) | スウェーデンの高齢者の食をめぐる課題及び食と農を連携させる政策がもたらす課題の調査から、今後の食育事業のあり方を検討する。   |
|              |   |

|              |  |
|--------------|--|
| 本学教員         | 高田 実宗（法学部 法律学科）  |
| 委託者          | 公益財団法人 国際交通安全学会  |
| 研究課題         | 路上駐車の法的可能性   |
| 研究目的<br>(内容) | 公道空間における電動小型モビリティのシェアリングを念頭に、路上駐車の法的可能性について、行政法学、とりわけ公物法理論の観点から分析を加え、その法的基盤の安定化および次世代化を図る。 |
|              |  |

|              |  |
|--------------|--|
| 本学教員         | 新井 知大（医療健康科学部）   |
| 委託者          | 日通テクノ工業株式会社  |
| 研究課題         | 感染防護策を講じた感染防護ユニットの開発   |
| 研究目的<br>(内容) | 主任研究員として、本開発物の運用プロトコル等の策定<br>※公益財団法人東京都中小企業振興公社 第12回医療機器等事業化支援助成事業 |
|              |  |



持続可能な開発のための実施手段を強化し、  
グローバル・パートナーシップを活性化する

## 受託研究・寄付講座

### 【2021年度 受託研究】

|   |   |
|---|---|
| 本学教員  | 新井 知大 (医療健康科学部)   |
| 委託者   | 公益財団法人 筑波メディカルセンター  |
| 研究課題  | アフターコロナ運用プロトコル作成とエックス線診療車内での安全リスク評価                         |
| 研究目的<br>(内容)  | 本開発物の運用プロトコル及びリスク評価等<br>※茨城県 DXイノベーション推進プロジェクト事業 研究開発プロジェクト |
|   |   |

### 【2021年度 寄付講座】

|      |                    |
|------|--------------------|
| 科目   | 「法式実習」 仏教学部 専門教育科目 |
| 担当教員 | 角田 泰隆 (仏教学部 禅学科)   |
| 寄付団体 | 曹洞宗施檀林講座支援会        |

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 科目   | 「現代マネジメントⅢ」 経営学部 専門教育科目 |
| 担当教員 | 青木 茂樹 (経営学部 市場戦略学科)     |
| 寄付団体 | 大和ハウス工業株式会社             |

|      |   |
|------|---|
| 科目   | 「アドバンスマーケティング」 グローバル・メディア・スタディーズ学部 専門教育科目 |
| 担当教員 | 朴 正洙 (グローバル・メディア・スタディーズ学部)                |
| 寄付団体 | 新日本製薬株式会社                                 |



## SDGs全般を取り扱った授業



|   |                  |
|---|------------------|
| 専門教育科目  | 「演習Ⅱ」            |
| 担当教員  | 溝手 芳計（経済学部 経済学科） |
| 概要  | 産業の発展と地球の限界      |
| ゼミの年間テーマを「地球環境問題」とし、「環境経済入門」のテキスト学習の中で、温暖化問題や廃棄物問題の実情と対策について言及した。   |                  |
|    |                  |



|   |  |
|---|--|
| 専門教育科目  | 「現代経済事情Ⅰ」                                    |
| 担当教員  | 松田 健（経済学部 現代応用経済学科）                          |
| 概要  | 現代経済事情Ⅰ(第2回講義:4月21日) 企業による SDGsへの取り組みを考えてみよう |
| SDGsの経済効果・SDGsと利害関係者・CSRとSDGsなどの個別のテーマでの投げかけと考察 |  |



|        |   |
|--------|---|
| 専門教育科目 | 「国際社会入門」「比較政治学」   |
| 担当教員   | 三竹 直哉（法学部 政治学科）   |
| 概要     | SDGs合意までの経緯、理念、バックキャストिंगとしてのマインドセット、民主政治等、政治的目標課題について。 |



|                            |   |
|----------------------------|---|
| 専門教育科目                     | 「外書講読Ⅰ/Ⅱ（英書）」   |
| 担当教員                       | 三竹 直哉（法学部 政治学科）   |
| 概要                         | SDGs合意までの経緯、理念、バックキャストिंगとしてのマインドセット、民主政治等、政治的目標課題について。 |
| 国連総会における合意文書の英文での読解を含めました。 |   |



|        |  |
|--------|--|
| 専門教育科目 | 「国際関係とメディア」「グローバル市民社会論」「グローバル交流論」                          |
| 担当教員   | 芝崎 厚土（グローバル・メディア・スタディーズ学部）                                 |
| 概要     | 本授業は、SDGsを含めたグローバル・イシューズの基礎をテーマにしているのでほぼ毎回の授業がSDGsに関連している。 |



## SDGs全般を取り扱った授業



|   |  |
|---|--|
| 専門教育科目  | 「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ a/b」、「演習Ⅲ a/b」                                  |
| 担当教員  | 芝崎 厚士 (グローバル・メディア・スタディーズ学部)                                |
| 概要  | 本授業は、SDGsを含めたグローバル・イシューズの基礎をテーマにしているため、ほぼ毎回の授業がSDGsに関連している |
| <p>演習は、SDGsを含めたグローバル・イシューズの基礎をテーマにしているため、全学年の演習がSDGsに関連している。ゼミ合宿でも、過去にMDGsやSDGsについて集中的に研究した学習を何度か行っている。</p> |  |



|        |   |
|--------|---|
| 全学共通科目 | 「新入生セミナー」                               |
| 担当教員   | Michael J Lynskey (グローバル・メディア・スタディーズ学部) |
| 概要     | SDGについて                                 |
|        |   |



|  |                        |
|--|------------------------|
| 全学共通科目   | 「新入生セミナー」              |
| 担当教員   | 松田 直行 (総合教育研究部 日本文化部門) |
| 概要   | クラスで取り組むSDGs           |
| <p>このクラスがもし通年授業だったとして、クラスでSDGsに関する活動目標を1つ決めて、実際に半年間活動し、後期の最後でその達成度を評価するとしたらどんな活動目標にするのがよいか、17の目標のうちどれにあたる(具体的に)どのような活動か、その活動のための参考となるWEBサイトを探し、グループワークで意見交換をして、発表する。</p> |                        |



|   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 全学共通科目  | 「英語 I B b」                      |
| 担当教員  | 勅使河原 三保子 (総合教育研究部 外国語第一部門)      |
| 概要  | 持続可能な開発とは何か、SDGsとは何か、持続可能な開発報告書 |
| <p>上記約3回にわたって英語でウェブサイトの読解をしたり、関連動画を視聴したりし、SDGs全体や日本の達成度に課題が残る項目について理解を深めたりした。</p> |                                 |
|   |                                 |



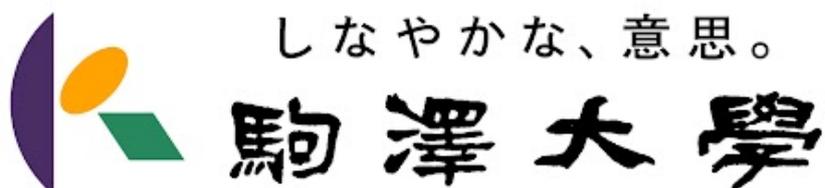
## SDGs全般を取り扱った研究



|  |  |
|--|--|
| 教 員  | 姉齒 暁 (経済学部 商学科)  |
| 概 要  | 農家女性のジェンダー平等政策 (スウェーデンと日本) 比較およびスウェーデンの無料学校給食と政策関与の二つを軸に研究をおこなっている。<br>(在外研究、スウェーデン、ルンド大学にて) |
| 農家女性のジェンダー平等政策 (スウェーデンと日本) 比較およびスウェーデンの無料学校給食と政策関与 (スウェーデンについては「移民」「家庭」「女性」「貧困」「平等」「教育」「飢餓からの解放」といった問題に関する研究グループで活動。 |  |
|  |  |



|     |  |
|-----|--|
| 教 員 | 芝崎 厚士 (グローバル・メディア・スタディーズ学部)  |
| 概 要 | 国際関係論 (国際政治学) をグローバル関係論 (グローバル関係学) へと発展的に構築する個別研究、共同研究を数多く行っていますので、SDGsを含めたグローバルな諸問題を広く扱っています。 |



発行日 2022（令和4）年3月25日  
発行 駒澤大学社会連携委員会  
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1  
TEL 03-3418-9218  
FAX 03-3418-9126  
事務局 駒澤大学 学術研究推進部 社会連携課（社会連携センター）